

〔古今和歌六帖三〕はし

津の國のなにはの浦のひとつ橋君をしおもへばあからめもせず

〔夫木和歌抄二十一〕題不知ひとつばし

平政村朝臣

くちのこる野田の入江のひとつばし心ほそくも身ぞふりにける

〔三河物語三下〕天正三年亥乙五月廿一日略中勝頼は纒二萬餘にてたき河之一つ橋之せつまよを

越贖橋を越て略下

〔橋窓自語下〕天明六年九月粟田新感神院の祭禮將軍家院殿明御事にて延引して十一月になりた

り此祭禮に白川の流の末知恩院ちかきわたり一本橋とてかりそめに石を二枚計りわたしたる橋を祭の劔鉾をもちて夜半ばかり夜わたりとてとほる事あり

〔和爾雅地理下〕陸奥國野田一橋略

〔江戸砂子一〕一ツ橋 神田ばしの西手也 御城取の時大木一本にてはしをかけしゆへの名なりと也

圓橋

〔八雲御抄三上儀〕橋 圓 清抄

〔夫木和歌抄二十一〕まろばし

〔藻鹽草橋五〕圓橋

〔倭訓栞中編二十四〕まろばし 丸橋の義丸木橋も同じ

藤原顯仲朝臣

〔堀河院御時百首和歌雜橋〕 くにけり人もかよはずいそのかみふるの、さはにわたすまろばし

圓木橋

〔八雲御抄三上儀〕橋 圓木

〔藻鹽草橋五〕圓木橋略中 岩にかけつく圓木橋